

◆ 年頭のごあいさつ

初春を迎えて

豊川市長 竹本 幸夫



新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、令和4年の新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしていますが、本市においては、関係機関や市民の皆さまのご協力を得ながら、感染拡大防止や地域経済の活性化などに取り組んでいるところでございます。

さて、我が国では少子高齢化が進み、既に「人口減少」という今までに経験のない時代を迎えています。本市としては、市長マニフ

エストで示した3つの基本理念に基づき、「元気なとよかわ子育てにやさしく 人が集うまち」の実現を目指して、本市の魅力を一層高めてまいりたいと考えています。

基本理念の1「暮らしやすさ第1豊川市」では、令和5年3月に八幡地区でイオンモールが開業することに合わせ、周辺道路の拡幅改良工事などを引き続き実施いたします。また、雇用の創出に向け、新規工業団地の整備に向けた検討を継続するとともに、暮らしやすさの向上のため、JR愛知御津駅の橋上化など、市街地インフラの整備を進めます。

基本理念の2「子育て豊川応援団」では、妊娠期から切れ目のない子育て支援を行う総合相談窓口を創設する他、子育て世帯を応援するため、満1歳を迎えたお子さんを対象とする子育て応援金の支給や、保育園・幼稚園などにおける給食費の減免などの施策を進めます。小・中学校では、スクールソーシャルワーカーを配置し、いじめの防止や不登校児童生徒の支援に取り組めます。

基本理念の3「市民と創る協働

と健全財政のまち」では、市民の主体的な活動を応援するため、地域で活躍する交通安全指導隊やスポーツ推進委員、消防団員に対する活動費などの支援を引き続き実施します。環境面では、家庭における再生可能エネルギーを活用したシステム導入を支援し、カーボンニュートラルの実現を推進します。行財政運営では、一層の効率化を図るため、AIなど情報技術の積極的な活用により自治体DXを推進します。

昨年11月30日に公表された令和2年国勢調査の結果では、本市は、東三河で唯一人口が増加している市町村となりました。これからも「元気なとよかわ」をより元気にできるよう、市民の皆さまと共に、豊川市を盛り上げていきたいと思

います。本年も、市民の皆さまの声を聴かせいただきながら、誠心誠意市政運営に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりましてより良い年となることを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。